

ビオトープフォーラム in 静岡 2023

令和五年六月二十三日、ビオトープフォーラム in 静岡二〇二三が、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」で開催され、日本ビオトープ協会の会員をはじめ全国から約百名が参加しました。協会設立三十周年を記念して、設立の地である静岡での開催となったことから、当協会も後援協力しました。

講演に先立ち、功労者やビオトープに取り組んだ六団体が表彰された。

そのうち愛知県豊田市立寿恵野小学校四年生の取組や、㈱オカムラ富士事業(御殿場市)「ビオトープ富士」の整備状況の事例報告があった。

○基調講演

「ビオトープが未来を拓く」三十年のビオトープ活動から」

元横浜国立大学学長、日本ビオトープ協会代表顧問 鈴木邦雄氏

○特別講演

「SDGs・生態圈における

ビオトープの重要性」

常葉大学名誉教授、日本ビオトープ協会特任顧問 山田辰美氏

○特別講演

「在来種日本ミツバチとその養蜂を支える自然環境」里山地域の事例から」

日本在来種みつばちの会理事

藤原愛弓氏



日本ビオトープ協会 (新) 会長の久郷 慎治氏



ボードウォークから水辺観察ができる



水田や畑で農業体験もできる

○エクスカージョン(現地見学会)フォーラム翌日には、あざはた緑地(静岡市葵区)の見学会が開催され約二十五名が参加しました。

『あざはた緑地』の概要

昭和四十九年の七夕豪雨を契機に、静岡県が洪水対策を目的に麻機遊水地を整備しているが、そのうちの一部工区を静岡市が借り受けて、緑地公園として市民に開放している。

運営は、環境活動団体や造園団体で組織された一般社団法人グリーンパークが指定管理者となっている。

公園内には、はらっぱ、小川、

農園のほか、緑地や遊水地の魅力発信を行うセンターハウスや農業体験棟もあり、季節に合わせたイベントを開催。園内では、植物観察・昆虫採集・魚捕りなど、自由に自然と触れ合うことができる。また、遊水地という特性を活かし、ミズアオイをはじめとする希少種の保全活動も行っている。ただし、洪水警報発令時など、本来の遊水地の機能を発揮させるため園内が冠水する恐れがある場合には立入り禁止となる。